

されました。発表形式は自由でしたので、各班に準備された模造紙を使って発表する班や口頭で発表する班もあり、いろいろな問題点や改善策を考えていただきました。

各班の意見・まとめ 1

【コミュニケーションと情報伝達の問題】

- ▶施設内:臨床側⇔輸血部
 - 「緊急」の言葉を鵜呑みにせずどれくらい待てるのか、どのような状況なのか確認する
- ▶医療機関⇔血液センター
 - 夜間帯に非専任技師が対応しているときに質問攻めされる
 - 緊急時に聞かれる内容を統一してほしい
 - 聞かれる内容をリスト化してほしい

第15回神奈川合同同種血液療法委員会

グループディスカッションで出た各班の意見と提案を、大きく3つにまとめました。1つ目はコミュニケーションと情報伝達の問題について。施設内では臨床側が緊急で輸血と言ってきたからといってそのまま血液センターに緊急と伝えるのではなく、どのような状況なのか、時間でどれくらい待てるのか確認すること。夜間帯に非専任技師が担当したときに血液センターより質問責めにされて困っているの、血液センターはどのような内容を聞きたいのか、聞きたい内容をリスト化してほしいとの意見がありました。

各班の意見・まとめ 2

【適正在庫の見直し】

- ▶適正在庫数を検討して、どれくらい院内在庫を持てるのか見直す
 - AABB TECHNICAL MANUAL 13th(日本語版)参照
- ▶赤血球製剤の使用期限を延長してほしい
- ▶予備血を車に積んでほしい

第15回神奈川合同同種血液療法委員会

2つ目は適正在庫の見直しについて。在庫を持たない、少なめに備蓄している場合は、適正在庫数を検討して、どれくらいなら在庫として保管できるかを見直すこと。適正在庫数の計算については、AABBのTECHNICAL MANUAL13版に記載があります。皆さんのお手元の資料の中に配布

してありますので、そちらをご参照ください。その他に、赤血球の有効期限がもう少し長いと在庫として持ちやすいや、予備血を配送車に積んでほしいとの意見もありました。

各班の意見・まとめ 3

【教育】

- ▶非専任技師に対する教育
 - 緊急発注時の対応方法など理解してもらう
- ▶輸血に関して知識豊富な職員がいない
 - 相談できるような窓口があればいい
- ▶依頼があれば日赤学術が開催、講義を行うこともできる

第15回神奈川合同同種血液療法委員会

3つ目は教育です。休日、夜間帯は非専任技師が対応する施設が多いので、緊急発注時の対応方法など理解してもらうよう教育する。輸血に関して知識が豊富な職員がいないので、困ったときに相談できる窓口があるとありがたいという意見や、依頼があれば学術の方が研修会を開催して講義を行うこともできるという紹介もありました。

定期便以外での発注について

★定期便供給へのご協力をお願いします★ ※赤血球製剤供給の確保が目的です。 ・・・定期便以外での発注について電話でお伝えいただく理由・・・	
1 緊急度	①患者の容体が深刻 ⇒「緊急発注」(血液の確保) ⇒「要サイレン」 ⇒「準備後すぐに出発」 ⇒「45分以内」 ②上記1項ではないが「定期便」ではない ⇒「〇〇時までに出発希望」 ③予備血、在庫切れ等 ⇒「本日まで」または「次回定期便」
2 理由	上記1項の場合は患者の容体や使用状況 ⇒「急ぐ理由」 (例: 心臓外科の手術中、大出血、交通渋滞等、)
3 製剤	「製剤の種類・本数」 (他の製剤の必要性・追加の可能性を可能な範囲でご確認ください。)

第15回神奈川合同同種血液療法委員会

第1回、第2回の合同カンファレンスを通して、医療機関と血液センターと意見交換を基に、スライドに示した「定期便以外での発注について」を血液センターに作成していただきました。定期便以外での発注時に血液センターが聞きたい内容をまとめたものです。

1つ目は緊急度についてです。危機的出血など一刻を争う状況のときは、「要サイレン」と伝えてください。サイレンを鳴らすほどではなく、供給準備ができたらずくに